

教育課程の意義と編成－3

10/7 担当：鶴殿篤

<http://meganeculture.boon.jp/2019/09/19/kateiron/>



■今回の見通し

・『学習指導要領』が言う「教育目標」を設定しよう！

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、**各学校の教育目標を明確にする**とともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、**第4章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。**(20-21頁)

→「総合的な学習の時間の第2の1」とは何でしょう？

第2 各学校において定める目標及び内容

1 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、**各学校の総合的な学習の時間の目標**を定める。(159頁)

→「第1の目標」とは何でしょう？

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な**知識及び技能**を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することが**できる**ようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする**態度**を養う。(159頁)

・結局、なにが言いたいのでしょうか？？？

■前回のおさらい

・「コンピテンシー」＝育成すべき資質能力の概念と背景について。

■今回身につける基本的知識

- ・21世紀の教育では、ソフトスキルと非認知能力の育成が重要になります。
- ・『学習指導要領』が学校教育の領域をどのように区切っているか、把握しよう。
- ・「生きる力」とは何か理解しよう。

■ソフトスキルと非認知能力

※ソフトスキル：数値や客観的な指標で評価しにくいスキルのこと。具体的にはリーダー

シブや協調性、計画力や忍耐力などがイメージされる。一方ハードスキルは、数値や客観的な指標で評価できるスキルのこと。IQや偏差値、GPAなど。

※非認知能力：客観的に比べられる知的・身体的能力ではなく、数字に表わしにくい性格的・道徳的な能力のこと。具体的には自制心とか人を温かくする優しさとか自己肯定感などがイメージされる。

・知識基盤社会あるいは Society5.0 では、ソフトスキルや非認知能力がますます重要になってくることが予想されています。

・特に重要なのは、学力の三本柱の(3)自主的に学ぶ姿勢・態度です。

・学校教育で、どうやってソフトスキルや非認知能力を育めばいいでしょうか？

・学校で行なうのは授業だけではありません。道徳、総合的な学習の時間、特別活動、課外活動(部活動)なども行なわれています。

・自分のソフトスキルや非認知能力が学校教育のどのような場面で伸びたか、思い返してみよう。



■『学習指導要領』の構造

・『学習指導要領』は、学校で行なう仕事の領域を4種類に分割しています。

(1)各教科(国・社・数・理・音・美・保体・技家・外)

(2)特別の教科 道徳

(3)総合的な学習の時間

(4)特別活動

←教科書を使用するかしないかの違い／評価に関する違い／教員免許に関する違い

■学校の教育目標

・かつて教育目標は「知・徳・体」の三本柱＝三育主義で構成されていました。

※三育主義といえば、スペンサー(英、1820-1903)。

・『学習指導要領』が進める「生きる力」も、「知・徳・体」の三本柱で構成されています。

・「確かな学力／豊かな心／健やかな体」

・しかし 21 世紀の学校教育目標は、コンピテンシーやソフトスキルの考え方に基づいて設定する必要があります。

←つまり、「学力の三要素」に則って、教育目標を定める必要があります。

■今回の「週刊教育課程」

(1)コンピテンシーとソフトスキルを踏まえて、みなさんの中学校の「教育目標」を設定しましょう。

(2)学年ごとの教育目標も設定してみましよう。発達心理学で学んだ知見を活用しよう。

■復習と予習

・ソフトスキルや非認知能力について書かれた最近の記事を読んでおこう。

・自分が中学校の時に受けていた「時間割」を思い出して、復元してみよう。

・総合的な学習の時間に何をしたか、思い出しておこう。

